

# 論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 94 号

2019 (平成31) 年2月16日 (土)

## 『いじめられている君へ』 —曾我 貢誠氏の詩集より—

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

今年の10月発行の「論語教室だより」第90号で「解決できない問題なんてない」というタイトルで、いじめについて書かせてもらいましたが、子供さんのみならず大人の方も含めて、塾以外からもそれなりの反響があり驚いている次第です。

冒頭の『いじめられている君へ』は、秋田県生まれで東京都内下町の中学校(理科)の教諭を務めていた曾我貢誠氏が退職後に出版した「学校は飯を喰うところ」という詩集からとったものです。

その詩を紹介しましょう。

### いじめられている君へ

いじている本人に 「やめてください」と言いなさい  
それがうまくいかないようなら 親しい友だちに「どうしたらいいか」と相談しなさい  
それがうまくいかないようなら 「助けてください」と先生のところに行きなさい  
それがうまくいかないようなら 「いじめられています」と親に言いなさい  
それがうまくいかないようなら 警察に行きなさい  
それがうまくいかないようなら 0570-0-78310 (なやみ言おう) に電話しなさい

もし この中の一つでもできたなら、もう昨日の弱い君ではない

いじている人以上に、強いあなたです

(この番号は全国統一の24時間いじめ相談電話 原則として所在地の教育機関に接続が可能)

この詩を読まれた感想は如何ですか。塾生・保護者の皆さんは、他人事とは考えずに、この詩に込められたシンプルな言葉の力に寄り添って今一度考えてみてください。

2017(平成29)年度の小・中・高のいじめ認知件数が414,378件で過去最多を更新しました。

最近のいじめは、会員制交流サイト(SNS)を用いて他人に命じて目に見えにくい手法で行うケースもあると言います。被害者の安全が脅かされる事態や更には不登校も増加し、自殺する児童生徒も増えています。

こうした現状を私達大人はどう考え、対応すればよいのでしょうか。学校も見て見ぬふりをしてはいないでしょうか。文科省は勿論のこと、家庭・学校・地域が一体となった防止策を真剣に考えなければ、巧妙になったいじめを減少させることはできないでしょう。

いずれにせよ、私は塾生・保護者の皆さんに訴えたいのです。

「一人でかかえこまない人生を歩んでほしい。解決できない問題なんて絶対はないのですから。」と。